

## 2021年度 学校自己評価

文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、昨年度に続き教職員による学校自己評価を実施しました。卒業生に対して実施した教育評価の満足度・到達度のアンケート結果とあわせ評価しました。集計結果を基に学校運営上の課題を明確にし、改善につなげるとともに、外部委員の参画による意見を取り入れ、受益者である学生の学習環境改善に努めてまいります。

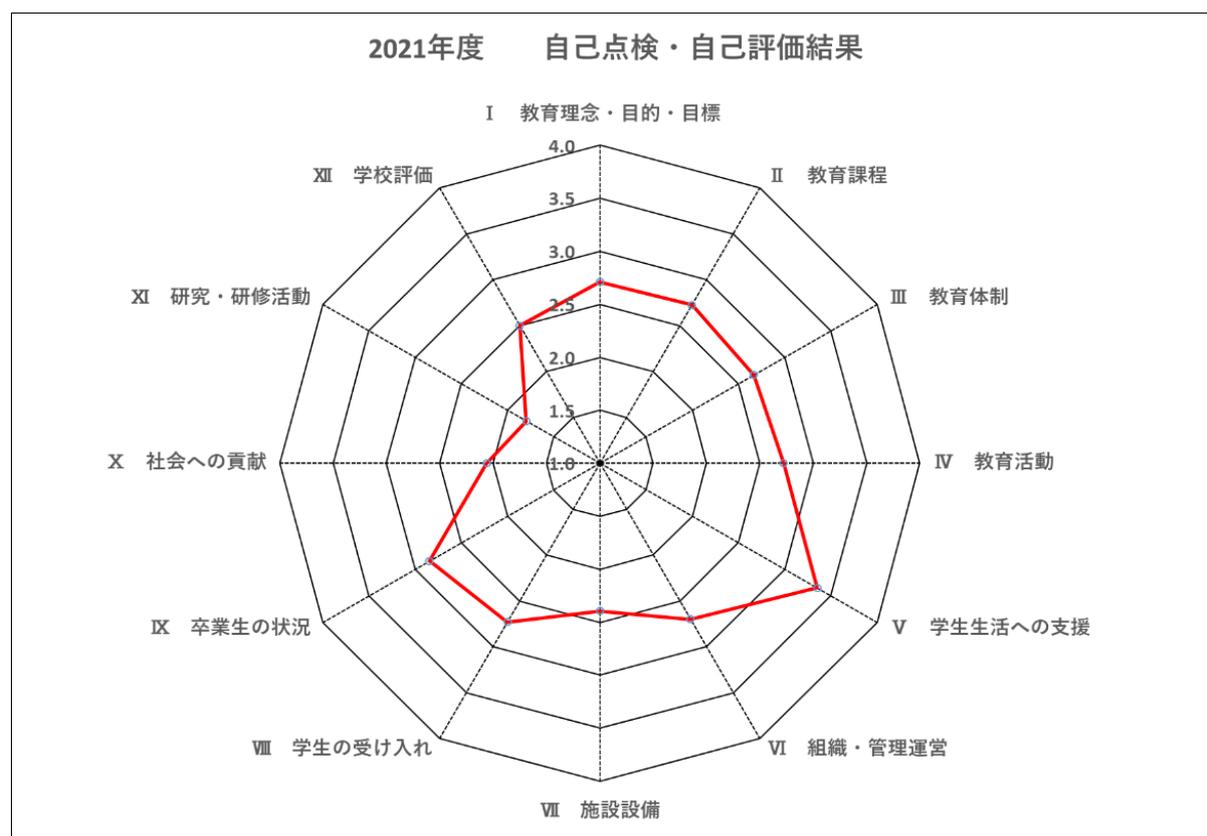
### 【大項目評価】

評価は右記の4段階とした 4：良い 3：やや良い 2：やや不十分 1：不十分

| I            | II   | III  | IV   | V      | VI           |
|--------------|------|------|------|--------|--------------|
| 教育理念・<br>目 標 | 教育課程 | 教育体制 | 教育活動 | 学生生活支援 | 組 織・<br>管理運営 |
| 2.7          | 2.7  | 2.7  | 2.7  | 3.4    | 2.7          |

| VII  | VIII   | IX     | X      | XI           | XII  |
|------|--------|--------|--------|--------------|------|
| 施設設備 | 学生受け入れ | 卒業生の状況 | 社会への貢献 | 研 究・<br>研修活動 | 学校評価 |
| 2.4  | 2.7    | 2.8    | 2.1    | 1.8          | 2.5  |

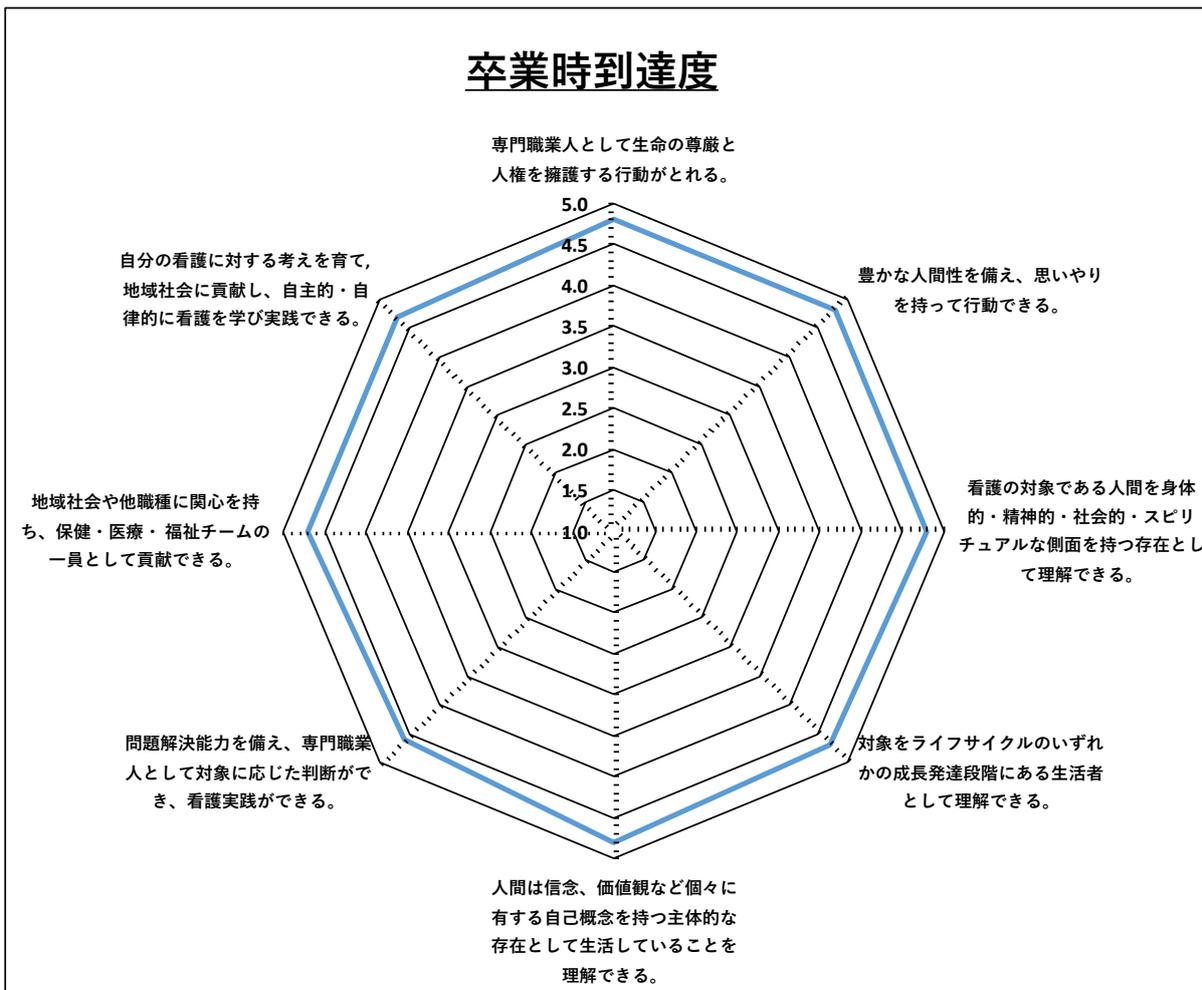
### 【大項目評価のレーダーチャート】



【卒業生(第3回生)の到達度】

| 教育評価（卒業時到達度） |  | 平均  |
|--------------|--|-----|
| 1            | 専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。                     | 4.8 |
| 2            | 豊かな人間性を備え、思いやりを持って行動できる。                         | 4.8 |
| 3            | 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を持つ存在として理解できる。  | 4.8 |
| 4            | 対象をライフサイクルのいずれかの成長発達段階にある生活者として理解できる。            | 4.7 |
| 5            | 人間は信念、価値観など個々に有する自己概念を持つ主体的な存在として生活していることを理解できる。 | 4.8 |
| 6            | 問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。          | 4.6 |
| 7            | 地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。           | 4.7 |
| 8            | 自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる。      | 4.7 |

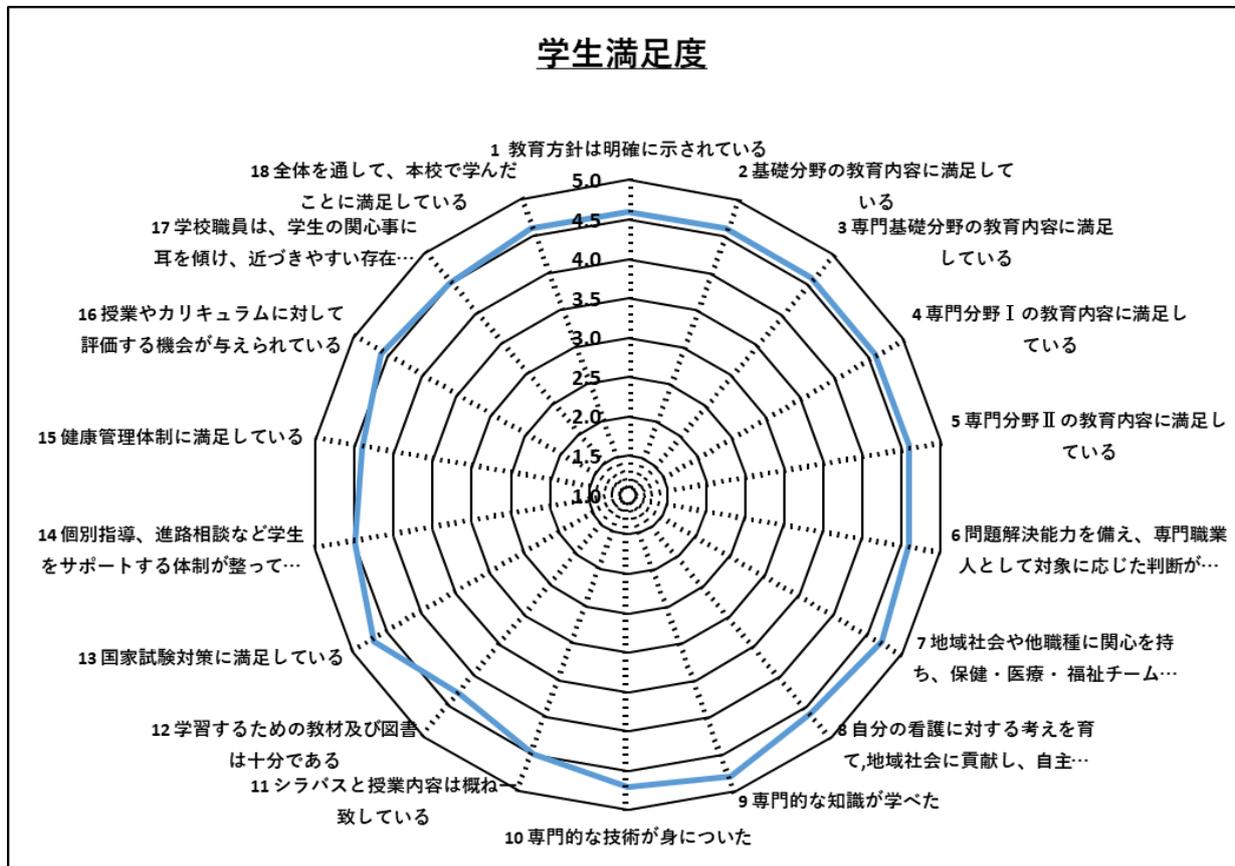
5:到達できた 4:少しできた 3:どちらともいえない 2:あまり到達できていない 1:全く到達できていない



【卒業生(第3回生)の満足度】

|    | 教育評価 (卒業生満足度)                              | 平均  |
|----|--|-----|
| 1  | 教育方針は明確に示されている                             | 4.6 |
| 2  | 基礎分野の教育内容に満足している                           | 4.6 |
| 3  | 専門基礎分野の教育内容に満足している                         | 4.6 |
| 4  | 専門分野Ⅰの教育内容に満足している                          | 4.6 |
| 5  | 専門分野Ⅱの教育内容に満足している                          | 4.6 |
| 6  | 問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる     | 4.6 |
| 7  | 地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる      | 4.7 |
| 8  | 自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる | 4.6 |
| 9  | 専門的な知識が学べた                                 | 4.8 |
| 10 | 専門的な技術が身についた                               | 4.7 |
| 11 | シラバスと授業内容は概ね一致している                         | 4.5 |
| 12 | 学習するための教材及び図書は十分である                        | 4.3 |
| 13 | 国家試験対策に満足している                              | 4.7 |
| 14 | 個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っている               | 4.5 |
| 15 | 健康管理体制に満足している                              | 4.4 |
| 16 | 授業やカリキュラムに対して評価する機会が与えられている                | 4.6 |
| 17 | 学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である              | 4.5 |
| 18 | 全体を通して、本校で学んだことに満足している                     | 4.6 |

5:大いにそう思う 4:そう思う 3:どちらともいえない 2:ややそう思う 1: 思わない



## 【大項目評価の自己評価の要約と評価】

### I 教育理念・目標

教育目標は、「学生便覧」に明示し入学時オリエンテーションで説明しているが、教員が日常の場面で教育目標に具体的に触れ、学生が教育目標を意識した行動をとることができるよう促す必要がある。一番低い項目が「学生・保護者への浸透：2.1」であった。コロナ禍が続く中、コロナ禍前の教育体制に戻る時期がまだまだ見えないため、学生のみでなく保護者への文書や情報ツール（インフォクリッパー）を活用しながら、教育に対する姿勢を伝えていきたい。

卒業生に対するアンケート結果からは「教育方針は明確に示されている」に対する評価は5段階中4.6と昨年度の3.9より満足度は高かった。

---

### II 教育課程

2022年度カリキュラム改正のための準備作業を進め、新教育課程を整備することができた。次年度は2つのカリキュラム評価体系の構築をすすめ、教育課程を評価していきたい。

卒業生の教育評価（学生満足度）からは各分野の教育内容に関して5段階中4.5～4.6と昨年度の3.8～4と比較し高評価であり満足度が高いと評価できる。

---

### III 教育体制

単位認定や国試対策、個々の学生への支援は3.0～3.8と良好であるが、実習関連項目が全般的に低かった。最も低い細目は「実習科目に見合った実習施設：2.2」「実習施設の見直し：2.2」

「効果的な教育方法の検討の場：2.2」であった。学生数に見合った実習施設の確保が優先された結果と考えられ、教育目標を達成するためには実習施設の現状と教育方法の吟味が今後も重要となる。また領域毎に授業研究や模擬授業を開催する機会を検討する。

---

### IV 教育活動

シラバス等の見直しは、領域毎に検討し授業計画や改善につなげている。今年度も新型コロナ対策のため、学生の主体的学習を十分サポートできたとはいえない。最も低い細目は「日常的な教材研究の実施：2.6」であった。教員は実習やコロナによる対応業務から講義前の十分な時間の確保が難しい状況が考えられる。次年度は教材研究や視聴覚教材数の拡大を図り、効果的な授業作りを目指したい。

---

### V 学生生活支援

学生に対する支援は他の項目と比較すると今年度も高い評価であった。健康管理に対する支援が細やかに提供できている。最も低い細目は昨年度同様「中途退学者を少なくする支援：2.9」であった。退学理由は家庭環境や生活面、学習困難などさまざまである。学習支援は入学時より留意している部分ではあるが学習困難となる前の早期支援と同時に学習困難者への活動をより充実させる。また、個別面談により、より綿密な学生支援を継続する。学生からの評価は国試対策支援、個別指導、健康管理体制共に5段階中4.4～4.7と満足度は高かった。

---

### VI 組織・管理運営

学校運営上の決定は週1回の運営会議で適時迅速な対応に努め、教職員は、業務分掌に従って役割を実施し、検討事項は教員会議や各委員会等で検討できている。タブレットの導入や遠隔授業に向けた準備のためのプロジェクトチームは情報管理委員会として新たに活動を開始し

た。学校情報ツール（インフォクリッパー）を活用し、適時に学生・保護者への周知ができて  
いる。昨年度同様、最も評価が低い細目は「運営に必要な人数と職種：1.4」「教員ラダーの活  
用：1.4」であった。業務のスリム化・効率化と教員ラダー構築の必要がある。

---

## Ⅶ 施設設備

施設・設備は指定規則に則っており、モデル人形やシミュレーター教材は充実しているが、  
コロナ禍のため教室環境の見直しをしたことと、3 学年ともに 120 名となり昨年度より学生総  
数が増加し、ゆとりの空間がさらに減少した。このため「憩いの場作り：1.5」と前回より、0.4  
ポイント低下した。限られた空間で、過密にならない工夫が今後も必要である。前回と同様に  
図書に関する項目が低評価であり、今年度は図書委員会を中心に図書、図書室の充実を目指す。  
学生評価は 5 段階中 4.3 であった。

---

## Ⅷ 学生受け入れ

広報を中心に東北 6 県の高校訪問や進学セミナー参加による学校説明、当校の学校見学やガ  
イダンスを継続している。いままで実施していた高校要請の模擬授業はコロナ禍により一時中  
断している。コロナ禍の現在、密を避けながら少人数にわけ工夫したオープンキャンパスを開  
催し、学校の周知に努力し、受験倍率も高水準で維持できている。

---

## Ⅸ 卒業生の状況

第 111 回国家試験合格率は現役生で 95%、3 回生のみ 96.6%、既卒込みで 93.6%であった。  
既卒者への学習支援の成果として既卒者も 3 名合格した。希望者には准看護師資格試験も受験  
させ、国家試験不合格の学生も資格を持って卒業できた。就職希望者の就職率は今年度も 100%  
を維持できた。卒業生による教育評価の「本校で学んだことに満足しているか」の項目は 5 段  
階中 4.6 と昨年度より +0.3 ポイントの高評価であった。

---

## Ⅹ 社会への貢献

学生自治会がないこと、ボランティアが組織化されていないことから、当校のボランティア  
件数は少ないが、新カリキュラムでは地域を重視する科目としてボランティア活動が含まれた  
科目を設定している。対外的な貢献として研修時に使用する教材の貸し出しや研修の講師を実  
施し貢献している。

---

## Ⅺ 研究・研修活動

評価ポイントは 1.4~2.0 と低評価である。外部研修の計画や機会が少なく、全項目中、最も  
低い評価であり、引き続き今後の課題である。クラス数は各学年 3 クラスあるため、授業回数  
が多くなること、領域実習や学校行事、クラス担当、講義など業務が多岐にわたり、特にコロ  
ナ禍における対応に多くの時間を費やすなど教務は多忙ではあるが、自己研鑽するための機会  
を設けられるような環境づくりが重要である。

---

## Ⅻ 学校評価

今年度の学校評価は前年度より全項目のポイントが下がっている。学校評価をすることで当  
校の課題が明確となるため、評価結果をもとに改善できるようそれぞれの項目について検討し  
ていきたい。

## 1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

## 2 学校関係者評価の内容

- (1) 自己評価項目等の適切性
- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性
- (3) その他

## 3 学校関係者からの評価意見

評価者：病院看護部長

### (1) 自己評価項目等の適切性

- ① 自己評価は適性にできており、評価指数も妥当だと考えます。教育全般に関して、実習施設として伝えておきたいことを②③に記入しました。
- ② 学生数が多く先生方の指導が行き届かないところもあると思いますが、実習目標達成に向けて指導がきちんとできていると思います。学生達が患者に寄り添い、積極的・意欲的に実習に取り組んでいるのは先生方の能力の高さと努力によるものだと考えます。
- ③ 先生方の対応能力・コミュニケーション能力の高さが、実習施設との協力体制につながっています。指導者、師長、先生が連携して情報共有ができており、互いに協力して学生に関わっており、それが「いい看護」につながり「いい実習」ができていると思います。患者からの「ありがとう」「とても気持ち良かった」など感謝の言葉が、学生の喜びや楽しさ・うれしさにつながっていると考えます。
- ④ 感染対策への意識が高く、きちんとした対策が取られています。学生たちは、「自分達がきちんとしないと患者さんが感染してしまう」という高い意識をもって実習に臨んでおり、学校での生活指導がきちんとできており評価は高いと考えます。
- ⑤ 先生方には、現任看護師研修の講師や褥瘡対策に派遣して頂き、また、教材の貸し出しにも協力していただき「社会貢献」の評価は非常に高いと考えます。

## (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

自己評価の結果を踏まえて、今後の改善方策が適切に考えられています。

- ① 学生数が多く指導が行き届かない面が実習でも見受けられます。演習も何回やったからいいのではなく、必要な学生には自宅で自分自身や家族で演習してみるなどの自主的学習方法も必要なのではないのでしょうか。
- ② 実習が始まると、講義前の十分な時間の確保が難しく講義の事前準備ができない状況が先生方にはあるようです。そうすると、休日も講義の準備に当てなくてはならなくなり、公私の区別がなくなり心身のバランスが崩れ、優秀な人材の喪失につながりかねません。この辺の具体的な改善策が必要なのではないのでしょうか。

## (3) その他

- ① 自己肯定感の高い学生がおり、実習指導者の評価との間に差が生じる場合がある。何をもちえてできると判断しているのか、評価の視点に曖昧なところがあるためなのか、だとすれば、評価の視点を明確にする必要もあるのではないのでしょうか。
- ② 能力の高い学生の獲得が、地域での学校評価につながるため、今後も学生獲得に力を入れて行っていただきたいと思います。

## 評価者：学校顧問

### (1) 自己評価項目等の適切性

教育理念を「学生便覧」に明示し、入学時のオリエンテーションで説明しているが、日常の中に教員が具体的に触れないと浸透しにくいことを理解している。教育活動は、今年度のカリキュラム改正に伴い2本のカリキュラムが実施されるので、教員が良く熟知していないと混乱が起きることもある事を理解している。教育体制は模擬授業や授業研究を行う事で、お互いが学び合う場として共有ができることはよく理解されていて、できるだけ早期のうちに開始することが望まれる。教育活動では、シラバス委員会が機能している事の確認をしている。学生生活支援は日ごろきめ細やかに実施されていることが、学生満足度が高い結果になっている。組織運営では新人教員の育成が重要になっているので、分析通りに育成ラダーを早期のうちに作る事も重要である。施設設備では、図書については3回生が卒業している時期にて比較的新しい書籍が多いが、120名になっていることを多少勘案することや、コロナウイルス感染症の影響を受け、過密にならないような工夫も求められる。学生受け入れでは、コロナウイルスを考慮したうえでのオープンキャンパスを行う努力し、受験生の確保に努めている。卒業生の国試受験に備えての教育や士気低下防止のサポートをしている。学校全体では、教員一人一人の課せられたことを遂行できていると言えるが、社会貢献、研修・研修活動、学校評価は今後に期待される場所である。

## (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

教育目標を「学生便覧」に明示し、オリエンテーションで説明しているが、日常の場面で理念や目標の浸透を図っていることは適切である。卒業目標を保護者の理解してもらうことで、卒業まで学生が学生生活の家族の支援が受けられることと思われる。教育課程では今回はカリキュラム改正があり今後2年間は2つのカリキュラムが存在することで教員は煩雑になるが、2つの過程を平行していく必要がある。教育体制は教員同士の意思疎通を図り教科担当者が学生の信頼を得られるように、学生に同じことが言えるように新人教員を育てる必要がある。教育体制は領域ごとに研究授業や模擬授業ができることができるような体制の検討が望まれる。教育活動はコロナ禍が2年目となり昨年の経験を活かすことが望まれる。学生生活支援では学習支援や生活態度の支援を行い「中途退学者」を減らし、学力低迷者を早期に発見し指導することが重要であり、生活態度では保護者の協力が必要である。これも入学の時の動機づけが必要と思われる。組織・管理運営では、運営委員会の懸案について迅速な対応と、業務分掌が実施されており、適時に学生と保護者への周知がされている。教員定数は満たされているが業務改善を行い効率よいシステムの構築が望まれる。施設設備は学生の増員により憩いの場が減少したので、利用する時間や場所を決めるなど工夫が望まれる。図書の実績を図ることが挙げられているが、図書委員会が機能し毎年少しずつ増やすことが良いと思われる。学生受け入れでは、過密を避けながらのオープンキャンパスや周囲へ学校の存在を周知していることが評価され受験倍率も高水準で維持できている。卒業生の状況では、卒業生は国家試験合格率95%であり全国平均よりやや上回るが、毎年100%を目指しており、新卒者と既卒者への継続的な対応が望まれる。社会への貢献は昨年度もボランティアの育成を計画していたがコロナ禍のため実施することが困難であった。社会が落ち着いたらできるように準備が求められる。研究・研修活動は評価ポイントが低いですが、内部研修や外部研修をできることから行う必要がある。学校評価では、学校の課題が見えてきているため、評価をもとに優先順位をつけて全員で取り組み、改善できるように進める必要がある。

## (3) その他

2021年度は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、どこの看護学校でも実習も十分行えないまま1年が経過した。本校も教員は学問と臨床をつなげるために、教材の工夫や教員の経験を通して試行錯誤しながら3年間の学習支援をしてきた。国家試験はコロナ禍であっても手加減はないので、今までにない経験の中で力を注いできた。各学年120名という大所帯であったが、国の平均値を上回る結果であり評価できる。また、重要な役割には補助者を設け、十分な成果が出るよう改善をしたことが、層を厚くしていることで次年度に生きることを期待ができる。また、学生満足度でもよい評価を得たことは、今後の教員の取り組みにも励みになる。しかし「これでよい」と思うことは進歩がなくなるため、これからも教員一人一人が個々の課題と向き合い取り組むことがより一層の「学校の力」となり、学生の満足度を高水準に保つことに繋がる事と思う。この結果を分析評価し、研究・研修活動に役立てることを期待する。

## 【総評】

昨年度同様コロナ禍により学校関係者評価会議は、委員が一堂に会することがかなわず、各委員の書面により集約することとした。

当該校は、3回生を輩出し、学校自己点検・自己評価も3回目となる。昨年度から教職員評価に加え、卒業生評価も実施されている。

卒業生評価では全項目4（そう思う）以上の高評価であった。卒業時到達度では8項目平均が昨年度の4.2から4.7に、卒業生満足度も18項目平均が昨年度の4.0から4.6へと共に上昇した。今結果から学生の学習面・生活面の充実がうかがえた。

今後とも、看護教育をめぐる諸情勢・諸動向を注視しながら、今回の点検で明確化した諸課題を一つずつクリアーしていき、ますます地域社会に貢献できる学校であり続けることを願う。